

臨床工学技士 & 月刊『Clinical Engineering』 30 年のあゆみ



月刊『Clinical Engineering』は、お陰様で 1990 年の創刊から 30 周年を迎えました。ここでは、臨床工学技士に関連する歴史とともに、小誌の 30 年を振り返ります。

1987 年 (昭和 62 年)

6 月 臨床工学技士法 (昭和 62 年 6 月 2 日法律第 60 号) 公布

1988 年 (昭和 63 年)

4 月 臨床工学技士法施行

9 月 「臨床工学技士業務指針」
(CE 合同専門委員会) 公開

2670 名の
臨床工学技士が誕生！

11 月 第 1 回臨床工学技士国家試験実施

1990 年 (平成 2 年)

1990 年 1 月『Clinical Engineering』創刊

1987 年の臨床工学技士法公布を受けて企画を立ち上げ、1990 年 1 月に創刊。臨床工学 (clinical engineering) に関連する幅広い分野の医師、臨床工学技士、工学研究者などによる編集顧問・編集主幹制とし、現在は 3 名の編集顧問、7 名の編集主幹に就任いただいている。

創刊時より、臨床工学技士が携わる呼吸・循環・代謝や医療機器保守管理業務のほか、最先端の医工学技術や関連法規・JIS の改正、養成課程や入職後の卒後教育・専門認定など幅広いテーマの特集を企画し、各分野の第一人者、現場のトップランナーの先生方に執筆いただいている。



1993 年 (平成 5 年)

2 月 日本臨床工学技士会設立

累計合格者数
10,000 人突破！

3 月 第 6 回臨床工学技士国家試験実施
(臨床工学技士法現任者特例措置終了)

1995 年 (平成 7 年)

1 月 阪神・淡路大震災

阪神・淡路大震災で被災された方の貴重な経験と教訓を伝えるべく、1995 年 12 月号特集で、臨床工学技士が携わる ME 機器、電気設備、医療ガス設備に地震が与えた影響について取り上げた。

現在も、災害などに備えるための特集を定期的に企画するとともに、災害が発生した場合には、いち早く情報を届けるよう努めている。



1996年(平成8年)

1996年より、連載「第2種ME技術実力検定試験全問解説」を開始。第2種ME技術実力検定試験は、特に臨床工学技士養成校の学生には、臨床工学技士国家試験準備のための高いレベルの実力検定試験として認識されており、その勉強の用に供することを目的としている。現在も、毎年1～4月号で連載し、前年に行われた第2種ME技術実力検定試験について、1問ずつ、丁寧・詳細な解説を行っている。

本連載は
2019年で24年目!

2002年(平成14年)

3月 厚生省通知(健政発第263号)にて、医療機器の保守点検は医療機関の業務であり、自ら実施すべきものと明記
特掲診療科(冠動脈、大動脈バイパス移植術など)の施設基準に臨床工学技士1名以上の常勤が明記

2003年(平成15年)

3月 陰圧吸引補助脱血体外循環に関する勧告(3学会合同陰圧吸引補助脱血体外循環検討委員会)

2005年(平成17年)

3月 第18回臨床工学技士国家試験実施

累計合格者数20,000人突破!

4月 薬事法改正
従来の「医療用具」から「医療機器」へ法律上の名称の変更。医療機器安全対策の抜本的見直し

2005年の薬事法改正では、医療機器の安全対策の抜本的な見直しが行われた。臨床工学技士には新たな役割が期待されることから、2005年9月号特集でいち早く、改正のポイントについて取り上げた。



2006年(平成18年)

1月 高度先進医療施設基準に臨床工学技士の配置が明記
4月 経皮的中隔心筋焼灼術施設基準に常勤の臨床工学技士1名以上配置が明記
11月 「医療機関等における医療機器の立会いに関する基準」制定

2007年(平成19年)

4月 第5次医療法改正。医療機器安全管理責任者の配置義務化

2007年の医療法改正では、医療機器の安全管理体制の構築を目的に、すべての医療施設に「医療機器安全管理責任者」の配置が義務付けられた。当初は医療機器の安全使用や保守管理の体制・運用に苦慮する施設も多かったが、徐々に整備されてきている。

小誌では、医療機器安全管理体制や臨床工学技士の業務内容がどのように変化したが、数年ごとに特集で取り上げている。



2008年(平成20年)

3月 「透析液水質基準と血液浄化器性能評価基準2008」(日本透析医学会雑誌41(3): 159-167, 2008)
4月 「医療機関等における医療機器の立会いに関する基準」実施
平成20年度診療報酬改定
・医療機器安全管理料加算

2009年(平成21年)

人工呼吸器使用時の喀痰の吸引、動脈留置カテーテルからの採血が法令解釈にて解禁

2010 年 (平成 22 年)

- 4 月 平成 22 年度診療報酬改定
 - ・透析液水質確保加算
 - ・呼吸ケアチーム加算
- 10 月 「臨床工学技士基本業務指針 2010」公開 (臨床工学合同委員会)
- 11 月 「臨床工学技士業務指針」廃止
植込み型補助人工心臓管理施設認定基準に体外循環技術認定士が明記

2011 年 (平成 23 年)

- 3 月 東日本大震災

2011 年 3 月に発生した東日本大震災について、2012 年 5 月号特集で取り上げた。地震と津波、原発事故による未曾有の大災害。発生当時、臨床工学技士はどのように対応したのか。本特集では、その経験から、医療施設における災害対策について執筆いただいた。

また、東日本大震災で実施された計画停電について、その後行われた調査結果の報告、および透析施設における経験を取り上げた。



- 10 月 2011 年版 (社) 日本透析医学会「エンドトキシン捕捉フィルタ (ETRF) 管理基準」(日本透析医学会雑誌 44(9): 977-990, 2011)

2012 年 (平成 24 年)

- 3 月 第 25 回臨床工学技士国家試験実施
- 4 月 頭蓋内腫瘍摘出術、経皮的カテーテル心筋焼灼術の施設基準に臨床工学技士が明記
- 6 月 医用電気機器のバイブルともいえる基本規格「JIS T 0601-1」が改正

累計合格者数 30,000 人突破!

臨床工学技士の業務に必須の規格 (JIS や IEC) の改正については、臨床工学技士が知っておくべきポイントなどをいち早く特集で取り上げ、解説を行っている。



2013 年 (平成 25 年)

- 7 月 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設基準に体外循環技術認定士が明記
- 11 月 薬事法改正。「医薬品、医療機器等法の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」(略称：医薬品医療機器等法)に名称が変更

2014 年 (平成 26 年)

- 4 月 平成 26 年度診療報酬改定
 - ・特定集中治療室管理料加算

2015 年 (平成 27 年)

- 心臓血管外科専門医認定修練施設基準、および心臓外科におけるダビンチ支援手術施設基準に体外循環技術認定士が明記

2016 年 (平成 28 年)

4 月 熊本地震

腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの) の施設基準に臨床工学技士が明記

11 月 「2016 年版 透析液水質基準」

(日本透析医学会雑誌 49(11): 697-725, 2016)

累計合格者数
40,000 人突破!

2017 年 (平成 29 年)

3 月 第 30 回臨床工学技士国家試験実施

7 月 IMPELLA 実施施設要件に、体外循環技術認定士、人工心臓管理技術認定士が明記

11 月 弁尖間クリッピング式の経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設基準に臨床工学技士が明記

2018 年 (平成 30 年)

4 月 平成 30 年度診療報酬改定

- ・人工腎臓の施設基準の改定
- ・高気圧酸素治療適応疾患の見直し

2019 年 (平成 31 年)

お陰様で創刊 30 周年!

月刊『Clinical Engineering』は、読者のみなさま、これまでご執筆いただいた先生方など多くの方に支えられ、創刊 30 周年を迎えることができました。心より御礼申し上げます。
今後も、臨床工学 (clinical engineering) の広範な分野をわかりやすく解説し、読者のみなさまの日常業務に“すぐに”役立つ情報・知識をお届けすべく、編集部一同、ますます邁進して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

Clinical Engineering 編集部

月刊『Clinical Engineering』歴代の誌名ロゴおよび表紙デザイン

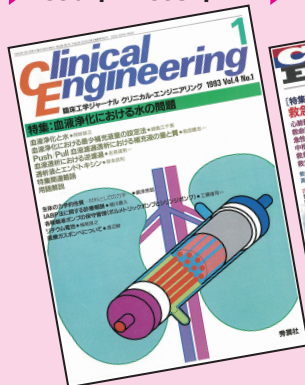
創刊以来、誌名のロゴおよび表紙を、3 回リニューアルしてきました。

表紙では、特集の内容をイラスト (1990 年～1995 年) や抽象的なモチーフ (1996 年～1999 年)、実際の医療現場を撮影した写真を加工・使用して (2000 年～2015 年) 表してきました。2016 年からは「読者の皆さまの業務に“すぐに”役立つ」ことをコンセプトに、表紙とロゴのほか、誌面のデザインと内容も一新しました!

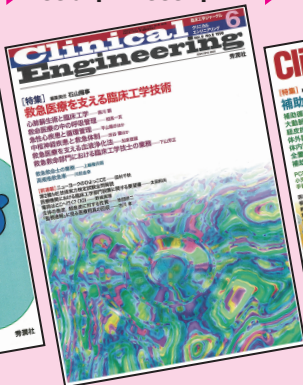
ちなみに 1996 年からは、誌名のロゴは、動脈血と静脈血をそれぞれイメージする赤・青の組み合わせで表現しています。デザインを一新した現在も踏襲しています。

なじみのある
CE 誌の「顔」はどれですか?

▶ 1990 年～1995 年



▶ 1996 年～1999 年



▶ 2000 年～2015 年



▶ 2016 年～

